

# 津市地球温暖化対策実行計画(案)の概要

## 第1章 計画の基本的事項

### 【目的】

深刻になりつつある地球温暖化問題に対応すべく、市域の自然的社会的条件に応じて温室効果ガスの排出抑制を行う

### 【構成】

区域施策編(市全域の施策)と事務事業編(津市役所の業務内の施策)を一つの計画として編纂

### 【計画期間】

令和3年(2021年)度～令和12年(2030年)度  
 ※国の「地球温暖化対策計画」に準じた計画期間  
 ※必要に応じ、2025年(令和7年)度に中間見直し

## 第2章 温暖化の現状と国内外の動向

### 【世界の動向】(温室効果ガス排出抑制の世界的な取組促進)

平成27年(2015年)9月「SDGs」採択

平成27年(2015年)12月「パリ協定」

### 【日本の動向】(2050年(令和32年)カーボンニュートラル実現への動きが加速)

令和2年(2020年)10月臨時国会:2050年カーボンニュートラル宣言

令和2年(2020年)12月:「2050年カーボンニュートラルに伴う成長戦略」策定

### 【新型コロナウイルスによる経済停滞】

欧州を中心に、脱炭素と経済回復を同時に進める「グリーン・リカバリー」の実践

### 【気候変動への危機感】

令和2年(2020年)版環境白書:近年の気候変動問題を「気候危機」と表現

→ 温室効果ガス排出抑制に向けた取組の必要性

## 第3章 温室効果ガス排出量の状況

### 【対象とする温室効果ガス】

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)

⇒日本における温室効果ガスの排出割合の90%を占めること、市民の日常的取組により最も削減が可能であることから設定

### 【現計画の削減目標と排出量の現状】

- 現計画(計画年度:平成25年(2013年)度～令和2年(2020年)度)令和2年(2020年)度の二酸化炭素排出量を平成21年(2009年)度比30%削減する目標設定

### ○現計画の目標達成に向けた津市の取組

- ・省エネ生活の奨励
- ・「新エネルギー利用設備設置費補助金」による家庭用太陽光システム、エネファーム等の設備導入促進

### ○直近の排出量の現状

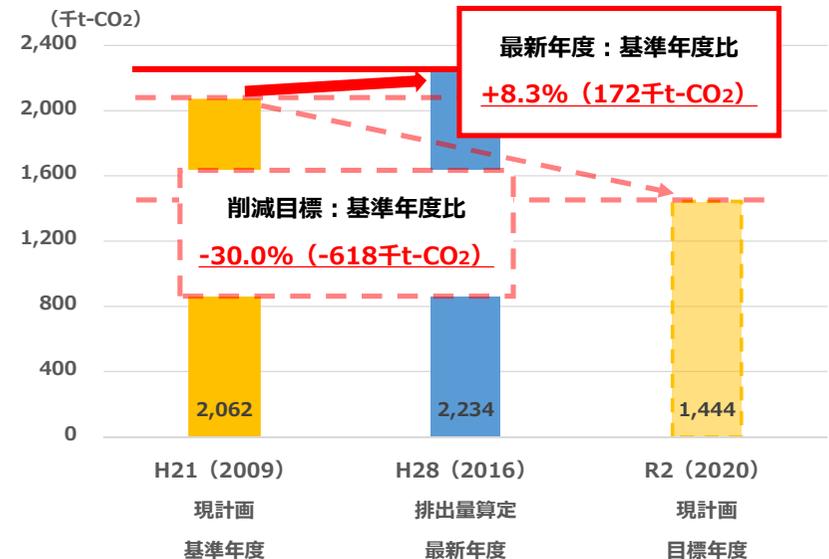
排出量が把握可能な最新年度である平成28年(2016年)度の排出量は平成21年(2009年)度比8.3%増加

### <外的要因>

東日本大震災による電源構成の変化(石炭火力発電量の増加)に伴う電力排出係数の悪化、国の景気刺激策による製造業の活性化

### <津市の取組に係る要因>

大規模事業者の自主的取組が浸透せず⇒啓発方法に改善の余地  
 汚れた容器包装プラスチックの取扱い⇒分別の啓発に改善の余地



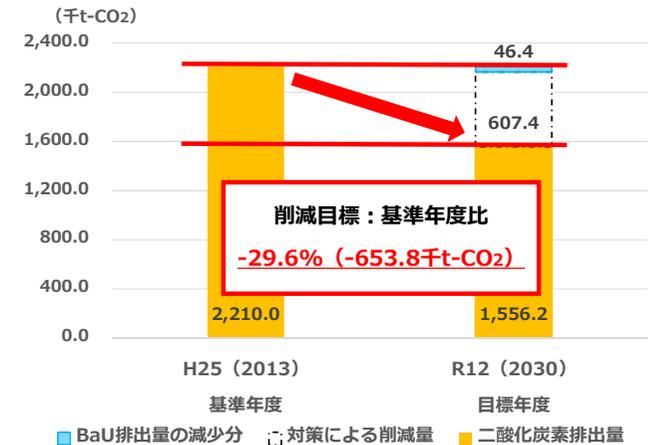
区  
域  
施  
策  
編

### 第4章 温室効果ガス排出量の削減目標

令和12年(2030年)度の二酸化炭素排出量を  
平成25年(2013年)度比で**30%削減(▲653.8千t-CO<sub>2</sub>)**

うちBaU排出量減少分:46.4千t-CO<sub>2</sub>(基準年度比▲2.1%)  
うち取組による削減量:607.4千t-CO<sub>2</sub>(基準年度比▲27.5%)

※環境省、経済産業省を中心に国の目標数値の更新が検討されているため、新たな目標数値が示された際は改めて津市の削減目標を見直すこととする



### 第5章 二酸化炭素排出抑制に関する施策

【国や三重県の取組が効果的に実施されるための連携】

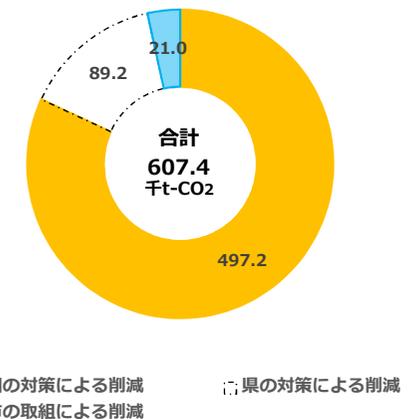
○国の取組:▲497.2千t-CO<sub>2</sub>(対策による削減量のうち81.8%)  
業種間省エネの取組促進、住宅・建築物の省エネ化、公共交通機関の利用促進など

○県の取組:▲89.2千t-CO<sub>2</sub>(対策による削減量のうち14.7%)  
大規模事業所の自主的取組の促進、環境に配慮した住まいづくり、物流の効率化など

【津市における取組】

▲21.0千t-CO<sub>2</sub>(対策による削減量のうち3.5%)

- ①市民、事業者の取組:省エネ行動、環境に配慮した生活・行動、再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入、住宅・事務所の省エネルギー化、緑化など
- ②市の取組:再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入促進、環境教育・環境学習の推進、環境意識の高揚
- ③地域特性を考慮した施策:再生可能エネルギーに関する情報発信、ごみの分別及び減量によるプラスチックごみ焼却量削減、森林吸収源の活用



### 第6章 計画の推進体制と進捗管理

【推進体制】

効果的に推進するため、市民・事業者・津市が連携し協働

【進捗管理】

PDCAサイクルにより実施、排出状況や削減成果を市HP、ごみ分別アプリ「さんあ〜る」等を用いて広く周知

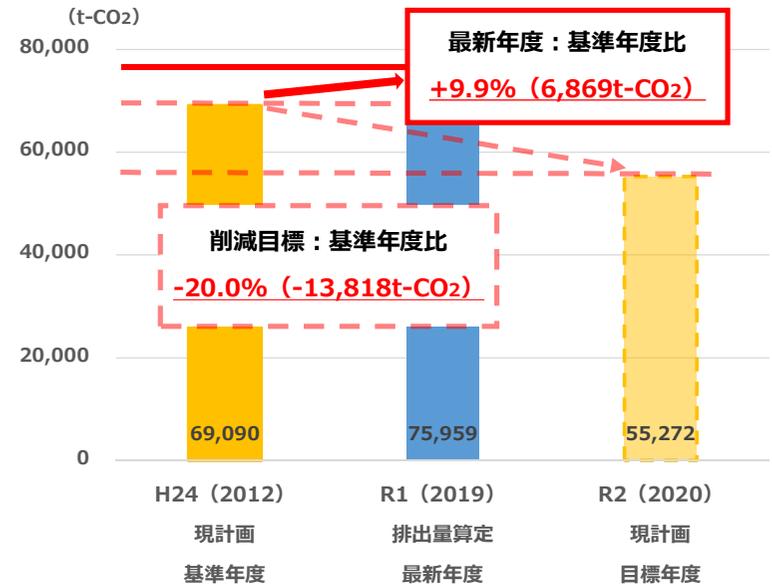
## 第7章 温室効果ガス排出量の状況

### 【対象とする温室効果ガス】

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、メタン(CH<sub>4</sub>)、一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)、ハイドロフルオロカーボン(HFC)の4種：津市の事業実施に伴い発生することから設定

### 【現計画の削減目標と排出量の現状】

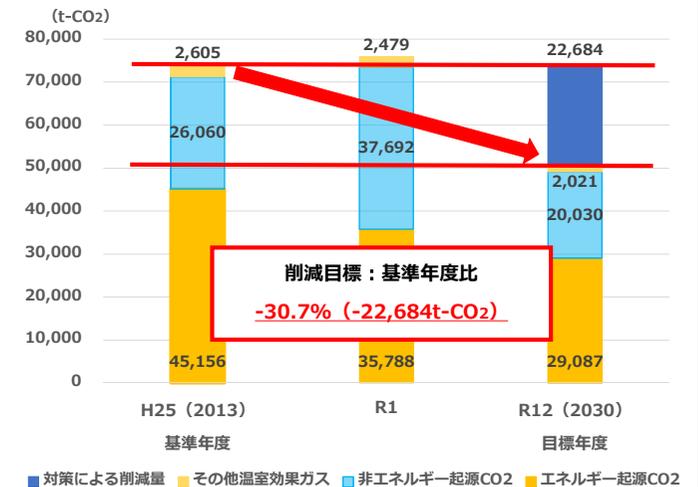
- 現計画(計画年度:平成25年(2013年)度～令和2年(2020年)度)  
令和2年(2020年)度の二酸化炭素排出量を平成24年(2012年)度比20%削減する目標設定
- 現計画の目標達成に向けた津市の取組
  - ・小学校、中学校等への太陽光発電設備の導入
  - ・幼稚園、保育園、公民館等への高効率エアコンの導入
  - ・「津市環境管理システム」への取組による職員の意識向上
- 直近の排出量の現状  
排出量が把握可能な最新年度である令和元年(2019年)度の排出量は平成24年(2012年)度比9.9%増加  
 <外的要因>  
 東日本大震災による電源構成の変化(石炭火力発電量の増加)に伴う電力排出係数の悪化  
 <津市の取組に係る要因>  
 汚れた容器包装プラスチックの取扱い  
 ⇒平成28年(2016年)以降、可燃ごみとして回収し焼却



## 第8章 温室効果ガス排出量の削減目標

令和12年(2030年)度の温室効果ガス排出量を平成25年(2013年)度比で**30%削減(▲22,684t-CO<sub>2</sub>)**

- うちエネルギー起源二酸化炭素: ▲16,069t-CO<sub>2</sub>(基準年度比▲21.8%)
- うち非エネルギー起源二酸化炭素: ▲6,030t-CO<sub>2</sub>(基準年度比▲8.1%)
- うちメタン: +58t-CO<sub>2</sub>(基準年度比+0.1%)
- うち一酸化二窒素: ▲643t-CO<sub>2</sub>(基準年度比▲0.9%)
- うちハイドロフルオロカーボン: ±0t-CO<sub>2</sub>(基準年度比±0.0%)



## 第9章 目標達成に向けた取組

### 【削減量の考え方】

排出量を把握している最新年度である令和元年(2019年)度では平成25年(2013年)度より排出量増加

⇒『電気の使用』『燃料の使用』『廃棄物の焼却』の3項目について平成25年(2013年)度比▲30.7%(令和元年(2019年)度比▲32.3%)

### 【取組による削減量】

○電気の使用:平成25年度比▲12,902t-CO<sub>2</sub>(令和元年度比▲5,951t-CO<sub>2</sub>)

うち排出係数効果分:▲9,081t-CO<sub>2</sub>(▲5,123t-CO<sub>2</sub>)

うち電力使用量減少分:▲3,821t-CO<sub>2</sub>(▲828t-CO<sub>2</sub>)

○燃料の使用:平成25年度比▲3,132t-CO<sub>2</sub>(令和元年度比▲528t-CO<sub>2</sub>)

灯油やLPG(液化天然ガス)から単位使用量あたりの温室効果ガス排出量が低いLNG(液化石油ガス)への移行などによる

○廃棄物の焼却:平成25年度比▲6,684t-CO<sub>2</sub>(令和元年度比▲18,143t-CO<sub>2</sub>)

うち一般廃棄物焼却量減少分:▲2,946t-CO<sub>2</sub>(▲2,173t-CO<sub>2</sub>)

うち廃棄物中のプラスチック率減少分:▲3,738t-CO<sub>2</sub>(▲15,970t-CO<sub>2</sub>)

### 【取組の方針】

○運用改善に係る取組方針

津市環境管理システムのPDCAサイクルの着実な実行

温室効果ガス排出状況の全職員への定期的な周知による環境

マネジメントに対する意識啓発

取組目標及び成果の市HP等による公表

○設備更新に関する取組方針

施設更新時の省エネルギー設備導入を継続検討

公用車更新時の次世代自動車(HV・PHV・EV)導入を継続検討

○再生可能エネルギーの導入に係る取組方針

公共施設新設・改修時の再生可能エネルギー機器導入を継続検討

防災拠点、避難所指定施設への太陽光発電・蓄電池の導入を検討

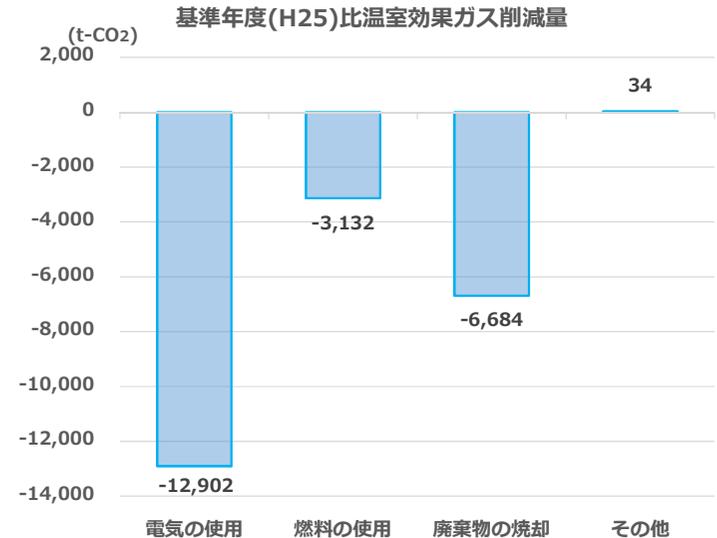
○ごみの資源化及び減量化に関する取組方針

市内の学校における「くるりんペーパー」「くるりんフード」両事業の継続実施による資源化の推進

公民館講座や出前講座を通じた市民への3Rの推進及び容器包装プラスチックの分別方法を啓発

○グリーン購入に関する取組方針

古紙配合率の高いコピー用紙の購入、事務用品調達時のエコマーク対象商品の購入



## 第10章 計画の推進体制と進行管理

### 【推進体制】

津市環境管理システムのPDCAサイクルによる推進

### 【進捗管理】

「地方公共団体実行計画策定・管理等支援システム(LAPSS)による自主的取組の促進、排出状況や削減成果を市HPで公表